(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-129901
(P2004-129901A)
(43)公開日　平成16年4月30日(2004.4.30)

(51)Int.Cl.[7]	F I	テーマコード（参考）
A45C 11/04	A45C 11/04 A	

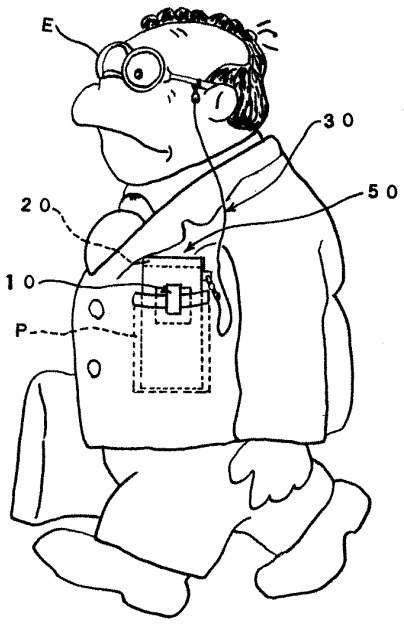
審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 10 頁）

(21)出願番号　特願2002-298495(P2002-298495)
(22)出願日　平成14年10月11日(2002.10.11)

(71)出願人　300005699
宮尾　博
東京都小金井市緑町４丁目５番１８号
(72)発明者　宮尾　博
東京都小金井市緑町４丁目５番１８号

(54)【発明の名称】メガネ保持袋

(57)【要約】
【課題】メガネの置き忘れが防止できるメガネ保持袋の提供
【解決手段】メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等に挟持させるために前記袋本体の片側の面部に固設されたフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成した。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するために前記袋本体の片側の面部に固着された側面形状が逆Ｕ字状のフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成され、前記吊り下げ部材の一方の端部は前記袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されていることを特徴とするメガネ保持袋。
【請求項２】
メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、前記袋本体の一つの面部に固着された嵌着部材ａ及び嵌着部材ｂとから成る嵌着部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するために前記嵌着部材ｂの裏面側に取り付けられた側面形状が逆Ｕ字状のフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成され、前記嵌着部材は、前記嵌着部材ａが前記袋本体に固着されていて、前記フックは前記嵌着部材ｂを介して前記袋本体に対して着脱可能であり、及び、前記吊り下げ部材の一方の端部は前記袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されていることを特徴とするメガネ保持袋。
【請求項３】
メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、前記袋本体の一つの面部に固着された嵌合部材ａ及び嵌合部材ｂとから成る嵌合部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するために前記嵌合部材の嵌合部ｂの裏面側に取り付けられた側面形状が逆Ｕ字状のフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成され、前記嵌合部材は、前記嵌合部材ａが前記袋本体に固着され、前記フックは前記嵌合部材ｂを介して前記袋本体に対して着脱可能及び正逆回転可能で、及び、前記吊り下げ部材の一方の端部は前記袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されていることを特徴とするメガネ保持袋。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
この発明は、メガネを収容して、被服やカバン等に収容されるメガネ保持袋に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来のメガネ保持袋は、図１０及び図１１に示したように、ソフトな袋体又はハードケース体で、この袋体又はケース体にメガネやサングラスを収容して被服のポケットに収容したり、カバンや引出し等に入れて保管するためのメガネの保護具的な役割として使用されていた。
そして、図１０にはメガネ用ハードケース６０に取り付けられたフック６１によりベルトに固定出来る技術が、図１１にはメガネ用ソフトケース７０の挿入部７２に板バネ７１を使用する技術が開示されている。
【０００３】
しかし、従来、常時メガネを必要としている人にとっては、メガネケースやメガネ保持袋からメガネを取り出して使用し、使用後にメガネを置き忘れてしまうという事が時々起きる。
また、近視の人の場合には、外出時にはメガネを着用して、くつろぐ時や本や新聞を見たり、家事の時にはメガネを外す場合が多く、そのまま置き忘れるという事が時々起きる。結果、これが自宅であれば問題無いが、これが遠方の外出先で置き忘れてしまった場合には、とても困ってしまうという問題を抱えていた。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
この発明は、以上のような従来の問題点に鑑み、メガネを保護して収容するだけのメガネ

保持袋ではなく、メガネの使用後の置き忘れを防止すると共に、着用する被服や、その他の被収容部に対応して最適な角度で装着することが出来て、更に取り扱いが容易なメガネ保持袋を提供することを課題とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

請求項１に記載の発明は、メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するために前記袋本体の片側の面部に固着された側面形状が逆Ｕ字状のフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成され、前記吊り下げ部材の一方の端部は前記袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されていることを特徴とする。

【０００６】

請求項２に記載の発明は、メガネを収容する収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、前記バネ収容部に収容されたバネ部材と、前記袋本体の一つの面部に固着された嵌着部材ａ及び嵌着部材ｂとから成る嵌着部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するために前記嵌着部材ｂの裏面側に取り付けられた側面形状が逆Ｕ字状のフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成され、前記嵌着部材は、前記嵌着部材ａが前記袋本体に固着されていて、前記フックは前記嵌着部材ｂを介して前記袋本体に対して着脱可能であり、及び、前記吊り下げ部材の一方の端部は前記袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されていることを特徴とする。

【０００７】

請求項３に記載の発明は、前記請求項２の嵌着部材を、嵌合部材ａ及び嵌合部材ｂとから成る嵌合部材に変えて、該嵌合部材は、前記嵌合部材ａが前記袋本体に固着され、前記フックは前記嵌合部材ｂを介して前記袋本体に対して着脱可能及び正逆回転可能であることを特徴とする。

【０００８】

【作用】

請求項１の発明によれば、まず、背広のポケットに収容してフックでポケットの口部に固定したメガネ保持袋をポケットから取り出す。

そして、メガネ保持袋上部の両側部を指で挟むことにより挿入口が広がるので、他方の手でメガネを取り出す。

そして、メガネ保持袋をポケットに戻してフックをポケットの口部に固定してからメガネを装着して使用する。

メガネを使かい終わったら、メガネを外して折り畳み、ポケットから取り出したメガネ保持袋に前記同様に挿入部を広げてメガネをメガネ保持袋に収容する。この時、仮にメガネ使用後にメガネ保持袋に収容せずに、テーブル等の上に置いて立ち去ろうとしても、ポケット内のメガネ保持袋とメガネは吊下げ部材により接続されている。

また、近視の人の場合には、外出時にはメガネを着用して、くつろぐ時や本や新聞を見たり、家事の時にはメガネを外す場合が多く、そのまま置き忘れるという事が時々起きるが、前記と同様の作用により置き忘れる事は無い。

【０００９】

請求項２の発明によれば、この発明の請求項１の発明の作用に加え、着用する被服、例えば背広の場合と着物の場合とではメガネ保持袋を収容する時の角度を調整した方が収まりが良い場合があるが、この場合には、袋本体に固着された嵌着部材ａ４１ａに対し、嵌着部材ｂ４１ｂは着脱可能なので、それぞれの被服に合わせて袋本体１Ａに対するフック１０の角度を自由に変えることが出来る。

【００１０】

請求項３の発明によれば、この発明の請求項１又は２の発明の作用に加え、袋本体に一組の嵌合部材（スナップ）を設けていて、袋本体に対するフックの取り外しも可能であるが、袋本体に対して、フックは正逆回転が自在なので、袋本体からフックを取り外す事なく

、袋本体に対するフックの角度を変える作用が得られる。
【発明の実施の形態】
以下、この発明の実施の形態について、図１乃至図９によって説明する。
【００１１】
この発明の実施の形態１について、図１乃至図６により詳細に説明する。
【００１２】
メガネ保持袋５０は、袋本体１と、フック１０と、バネ部材２０と、吊り下げ部材３０とで構成されている。
【００１３】
袋本体１は、方形の布地を二つ折りにして、この合わせ目の３つの辺の内、縦辺側上方の一部を残して、底辺と縦辺を縫着して長封筒状に形成して内部にメガネＥの収容部２を形成する。
上部の挿入口３周縁を所定分、内側下方に折り曲げて、水平方向に縫着し、前記縫着した縦辺側に二つの開口部を形成して筒状のバネ収容部４を形成する。　このバネ収容部４の下方の側辺には止環３１の取付孔５ａが穿設された方形の取付片５を縫着する（図３参照）。
【００１４】
この取付片５はわざわざ袋本体１から突出させて設けなくても、袋本体１の上方端部寄りに鳩目穴（図示せず）を穿設して鳩目処理により取付片５に変えても良いし、後述する吊下げ部材３０の紐状体３３の一方の端部を袋本体１に直接取付ても良い。
【００１５】
袋本体１の素材としては、この実施の形態では布地を用いているが、軟質の皮革、合成皮革、２枚の布類の間にウレタンフオーム等のクッション材をサンドイッチ構造にした素材、或いは和紙などを用いても良い。
使用する素材によっては、縫着に限らず、接着や溶着など、又はこの何れかを組合わせて加工する。
【００１６】
バネ部材２０は、ベリリウム銅板にニッケル等のメッキ処理が施された前記バネ部材２０を前記バネ収容部４に挿入する。
このバネ部材２０の両端部には同一面上で内側に折り曲げて筒部２０ａ，２０ａが形成され、この長辺側の中央部で２つ折りにして、平面形状を略Ｕ状に形成する（図４参照）。
【００１７】
前記バネ部材２０はベリリウム銅板の板バネに限定されるものではなく、耐久性があり弱い力で袋本体の挿入口を開口できる素材であれば、合成樹脂材、バネ鋼板、バネ性ステンレス板、リン青銅板、或いはピアノ線等のバネ性の線材を折り曲げ加工したもの等を用いても良い。
【００１８】
フック１０は、略長方形のベリリウム銅板を折り曲げて、側面形状を逆Ｕ状に形成する。この対面する２つの面部の１つの面部ａ１０ａは、支持部材４０より僅かに小さな同形状に形成され、もう一方の面部ｂ１０ｂは、前記面部ａ１０ａより小さな面に形成されている。
そして、前記フック１０の面部ｂ１０ｂを、袋状の２層構造に形成された支持部材４０の層間に上方から前記フック１０の面部ｂを挿入して、接着と縫着により嵌着部材ｂに固着する。
この、支持部材４０と一体になったフック１０を袋本体１の片方の面の上部寄り中央に縫着する（図５参照）。
【００１９】
前記フック１０は、被服のポケットＰ部分やカバンの仕切り部分等を挟持して被服やカバン等に着脱可能にするために使用され、本実施の形態ではベリリウム銅版を例示しているが、これに限定されるものではなく、弾性を有する素材であれは何でも良く、例えば、合

成樹脂材の成型品や、バネ性ステンレス板や鋼板、或いは、ピアノ線等をクリップ状にしたもの等を用いることも出来る。

【００２０】

吊下げ部材３０は、コイルばねや金属管などの移動環３４に、合成ゴム材等のリング状部材３５を通すことにより８の字状に成り、２つのループが形成された取付部材３２を、所定の長さの細い紐状体３３の両端部に取り付けて形成する。そして、一方の取付部材３２は袋本体１の取付片５に止環３１を介して取り付けられ、もう一方の取付部材３２はメガネＥのテンプル部分に取り付けられている（図１及び図２参照）。

【００２１】

この発明の実施の形態２について、図７により詳細に説明する。

【００２２】

この発明の実施の形態の２では、この発明の実施の形態１の構成に加えて、袋本体１Ａに嵌着部材４１を設けて、袋本体１Ａに対して、フック１を袋本体に対して取り外し自在にした事である。

【００２３】

嵌着部材（面ファスナー）４１は、一組の嵌着部材ａ，ｂ４１ａ、４１ｂにより構成されている。

嵌着部材（面ファスナー）４１の内、嵌着部材ａ４１ａを、袋本体１Ａの片側の面部上方寄りに嵌着部材ａ４１ａを縫着する。

これにより、もう一方の嵌着部材ｂ４１ｂの嵌着部ｄ４１ｄを、前記袋本体１Ａの嵌着部材ａ４１ａの嵌着面ｃ４１ｃに着脱自在に嵌着させることが出来る。

【００２４】

前記嵌着部材としては、面ファスナーと同様の機能を持つ磁性体、例えば磁石板等を使用する事も出来る。

【００２５】

この発明の実施の形態３について、図８及び図９により詳細に説明する。

【００２６】

この発明の実施の形態１の構成に加えて、袋本体１Ｂに嵌合部材ａ４３ａと嵌合部材ｂ４３ｂとから成る一組の嵌合部材（スナップ）４３を取り付けて、袋本体１Ｂに対してフック１０を着脱可能、及び正逆回転自在にした事である。

前記嵌合部材ａ４３ａは袋本体１Ｂの一つの面部に縫着する、そして、嵌合部材ｂ４３ｂにはフック１０が取り付けられる。

この嵌合部材ｂ４３ｂは、厚手の布地を方形の袋状に縫製して形成した支持部材４０の片方の面のほぼ中央部に嵌合部材ｂ４３ｂを縫着している。

この支持部材４０の層間に補強材としての薄い樹脂性シートや厚紙などを挿入する事により、支持部材４０の強度を高める事が出来る。

【００２７】

【発明の効果】

以上説明してきたように、請求項１に記載の発明によれば、メガネの収容部を有し、上端部の挿入口周縁にバネ収容部が形成された袋本体と、バネ収容部に収容されたバネ部材と、被服のポケットやカバンの仕切り部分等を挟持するるために袋本体の片側の面部に固着されたフックと、所定の長さを有する紐状体の吊下げ部材とで構成されていて、吊り下げ部材の一方の端部は袋本体に接続され、もう一方の端部はメガネに接続されているので、メガネ保持袋を被服に装着している限り、メガネは吊り下げ部材を介して常に被服と接続されているので、メガネ使用後の置き忘れを防止する事が出来る。

【００２８】

また、カバンやバツク等のように、直接、身に付けていないような物にメガネ保持袋を収容して取り付けている場合でも、カバンやバツクそのものを忘れない限り、メガネを置き忘れることは無くなる。

【００２９】

請求項２に記載の発明によれば、上記請求項１の発明の効果に加え、嵌着部材（面ファスナー）が嵌着部材ａと嵌着部材ｂにより構成されていて、嵌着部材ａは袋本体に固着され、嵌着部材ｂはフックと一体に成っていので、フックが袋本体に対して着脱可能である。従って、着物等のように、メガネ保持袋を装着する時に、袋本体とフックの角度を少し変えた方が収まりが良いというような場合には、袋本体に対するフックの角度を最適な角度に自由に調節することが出来る。

【００３０】

請求項３に記載の発明によれば、上記請求項１又は２の効果に加え、袋本体の一つの面部に着脱可能に縫着された嵌合部材ａと、嵌合部ｂの裏面側に取り付けられたフックとで嵌合部材（スナップ）が構成されているので、着脱及び正逆回転が可能なので、袋本体からフックを取り外す事なく、袋本体に対するフックの角度を所望の角度に自由に変えることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図１】この発明の実施の形態１に係る使用状態を表す参考図である。

【図２】同実施の形態に係るメガネ保持袋の説明図である。

【図３】同実施の形態に係る袋本体にフックが取り付けられた状態を表す正面図ある。

【図４】同実施の形態に係る袋本体の平面図による説明図である。

（ａ）平面図である。

（ｂ）実線矢示方向に力を加えて、袋本体の挿入部を開いた状態を表す平面図である。

【図５】同実施の形態に係る袋本体にフックが取り付けられた状態を表す左側面図である。

【図６】同実施の形態に係る支持部材に取り付けられたフックの説明図である。

（ａ）平面図である。

（ｂ）正面図である。

（ｃ）左側面図である。

【図７】この発明の実施の形態２に係る袋本体と嵌着部材（面ファスナー）とフックの関連を表す側面図である。

（ａ）袋本体に取り付けられた嵌着部材ａに、嵌着部材ｂに取り付けられたフックを嵌着させた状態を表す側面図である。

（ｂ）袋本体に取り付けられた嵌着部材ａから、嵌着部材ｂに取り付けられたフックを取り外した状態を表す側面図である。

【図８】この発明の実施の形態３に係る袋本体と嵌合部材（スナップ）とフックの関連を表す側面図である。

【図９】同実施の形態に係る支持部材に取り付けられた、嵌合部材（スナップ）とフックの説明図である。

（ａ）平面図である。

（ｂ）背面図である。

（ｃ）左側面図である。

【図１０】従来技術のメガネ用ハードケース及びフックを表す斜視図である。

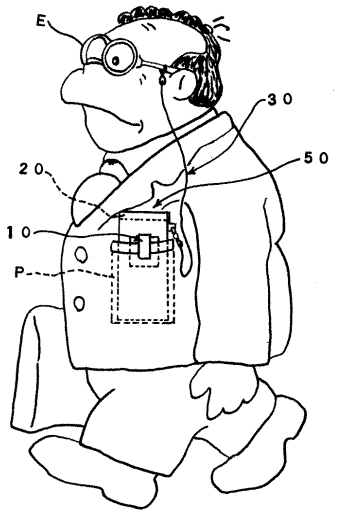
【図１１】従来技術のメガネ用ソフトケース及び平バネを表す斜視図である。

【符号の説明】

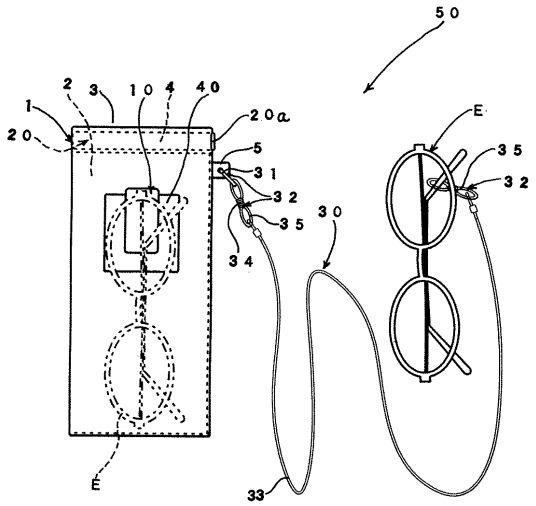
１　袋本体
２　メガネ収容部
３　挿入口
４　バネ収容部
５　取付片
１０　フック
１０ａ　面部ａ
１０ｂ　面部ｂ
２０　バネ部材

２０ａ　筒部
３０　吊り下げ部材
３１　止環
３２　取付部材
３３　紐状体
３４　移動環
３５　リング状部材
４０　支持部材
４１　嵌着部材（面ファスナー）
４１ａ　嵌着部材ａ
４１ｂ　嵌着部材ｂ
４１ｃ　嵌着部ｃ
４１ｄ　嵌着部ｄ
４３　嵌合部材（スナップ）
４３ａ　嵌合部材ａ
４３ｂ　嵌合部材ｂ
５０　メガネ保持袋
Ｅ　メガネ
Ｐ　ポケット

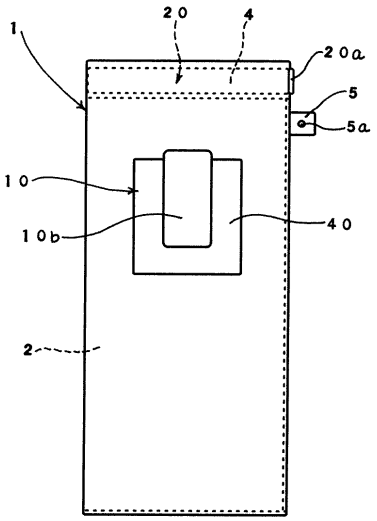
【図１】



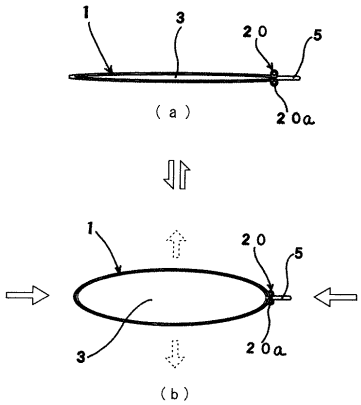
【図２】



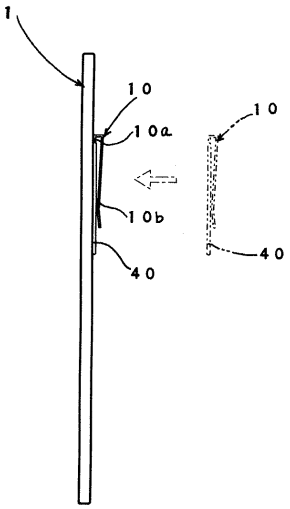
【図３】


1
20
4
20a
5
5a
10
10b
40
2

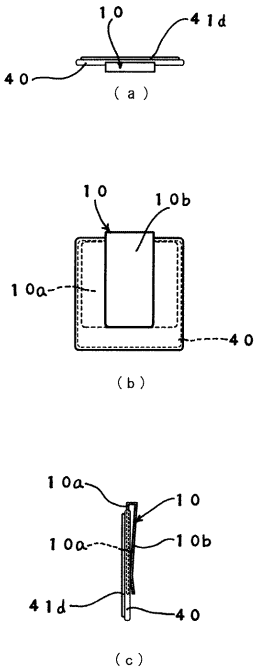
【図４】


1
3
20
5
20a
(a)
1
20
5
3
20a
(b)

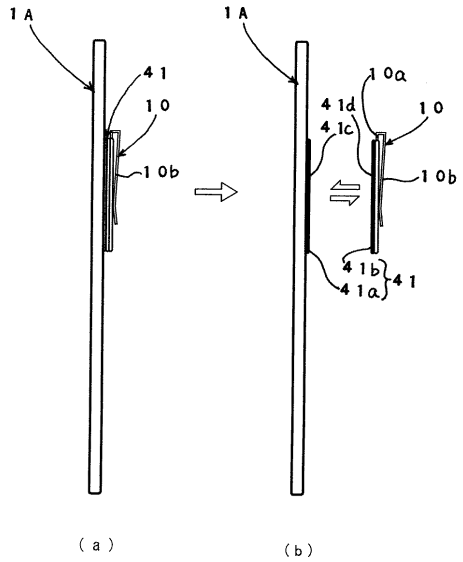
【図５】


1
10
10a
10b
40
10
40

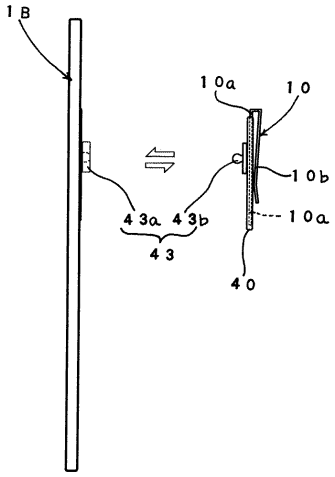
【図６】


10
41d
40
(a)
10
10b
10a
40
(b)
10a
10
10a
10b
41d
40
(c)

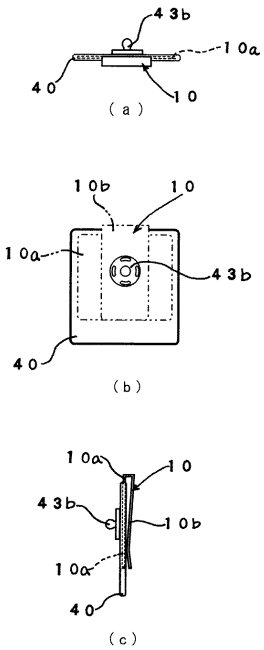
【図７】


１Ａ
４１
１０
１０ｂ
１Ａ
１０ａ
４１ｄ
４１ｃ
１０
１０ｂ
４１ｂ
４１ａ
４１
（ａ）
（ｂ）

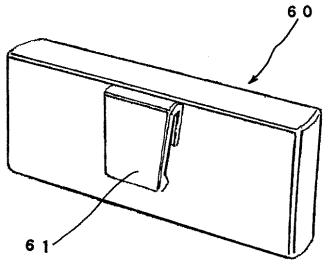
【図８】


１Ｂ
１０ａ
１０
１０ｂ
４３ａ
４３ｂ
１０ａ
４３
４０

【図９】


４３ｂ
１０ａ
４０
１０
（ａ）
１０ｂ
１０
１０ａ
４３ｂ
４０
（ｂ）
１０ａ
１０
４３ｂ
１０ｂ
１０ａ
４０
（ｃ）

【図１０】


６０
６１

【図１１】

